

今号の主な記事

- ◇家庭の粗大ごみ有料化について…2面
- ◇「西宮市優良事業所顕彰」を創設…2面
- ◇平成18年度環境調査結果の概要…3面
- ◇敬老月間に様々な事業…4面
- ◇保健だより…8面

便利さ広がる西宮の公共交通

身近な乗り物で行きたいところへ

本市の公共交通網はJR、阪急、阪神の鉄道23駅とそれを補完する阪急、阪神のバス路線によって構成され、「公共交通の利便性が高い都市」との評価を受けています。

しかし、社会の高齢化が進むとともに、市民の身近で便利な移動手段であるバスに対し、路線の改善や新たな路線導入など多様な要望が増えています。また、マイカー交通抑制など環境保全の面からも、公共交通の役割は、今後ますます広がっていくものと思われます。

市は、公共交通に関する課題を検討する場として「交通政策課題検討委員会」を設置し、山口地域と南部市域を連絡する「南北バス」や「阪急・阪神の経営統合後の公共交通のあり方」などの検討を重ね、交通事業者と協議を行ってきました。昨年10月には、阪急西宮北口駅と阪神西宮駅を連絡するバス路線が実現し、また今年3月には、JRさくら夙川駅の開業にあわせたバス路線の新設、西宮浜地区からの阪神バス路線の阪急西宮北口駅乗り入れなど、既存バス路線の充実と利便性向上を図ってきています。今後も引き続き交通事業者との協議を行い、市内の公共交通の一層の充実を図っていきます。問合せは都市計画グループ(0798・35・3527)へ。



いよいよ9月スタート 南北バス試験運行事業

現在、山口地域と南部市街地とを結ぶ公共交通機関は、阪急バスとJR福知山線や神戸電鉄などを組み合わせなければならず、乗り継ぎ無く1本で結ぶ南北バスなどの実現が、長年の懸案とされてきました。

平成16年4月には、北部地域住民の皆さんが「山口地域バス問題検討委員会」を作り、熱心な検討を進め、18年9月には市に対して運行計画案と陳情書を提出されました。市も南北バスの実現が市内交通の一層の充実に大きな意味をもつと考え、本格運行について判断を行うために、今年度、南北バスの試験運行事業を実施することにしました。

新たなバス路線の導入・継続には、利用者の利便性だけでなく、事業採算も大きな課題となります。また今回の試験運行では、バスの利用実態や利用者意識なども調査します。調査結果の分析や、関係者の皆さんからのご意見もいただきながら、本格運行について検討する予定です。

- 試験運行事業の概要**
- 運行期間：平成19年9月1日～11月30日
 - 運行事業者：阪急バス
 - 運行本数：名来系統12往復、新有馬系統12往復
(重複区間は24往復)

推計人口 47万5608人 (女25万34人、男22万5574人)
世帯数 19万9715 面積 100.18km² 平成19年(2007年)8月1日現在